理想をかなえるために少しずつ集めた家具を新居で優美に輝かせて

東京都　樽谷（たるたに）さん

Profile

ご夫婦それぞれ会社を経営。おもてなし上手の樽谷さんは、洋書や本誌を参考に、インテリアをコーディネート。エレガントなバラのアレンジもご自身で。愛犬のプリンセス＆ちびのすけと一緒に。

樽谷さんのインテリアパートナー

モンルーベ

ヨーロピアンカーテンの専門店。豊富なバリエーションのカーテンを毎年選りすぐって直輸入し、専門店ならではのスタイルを提案。「カーテンショップを何軒もめぐり、思いどおりのロココスタイルをかなえてくれるお店に、ようやく出会えました」と樽谷さん。

東京青山ショールーム
東京都港区南青山4-1-15
ベルテ南青山101
☎0120-048-016
10時〜19時
水曜、第1・3火曜休
www.monreve-japan.jp

Dining Room

1、2 キャビネット、テーブル、チェアは、ロココ調家具で知られるイタリア「マリオ・コルチャゴ」のもの。テーブル天板は上品なサーモンピンクの大理石の一枚板。テーブルのサイドには、マリー・アントワネットが好んだガーランド模様が。

2

1

トリーに配した円形コラムの奥に、エレガントなロココ調の家具が配されたさまは、さながら一幅の絵のよう。モールディングや袖壁のブラケットの美しさも格別です。

都心の閑静な住宅街にたたずむ樽谷さんのお宅は、まさに「白亜の洋館」。扉を開くと華麗なロココ調インテリアが広がり、その美しい世界観に一瞬で心を奪われます。輸入住宅メーカーに依頼してこの家を建てたのは、2年ほど前とのこと。各スペースに、まるで絵のように美しく家具が配置されているため、新居に合わせて家具をそろえたように感じられますが、意外にも結婚前の20代の頃に購入した家具がほとんどとか。

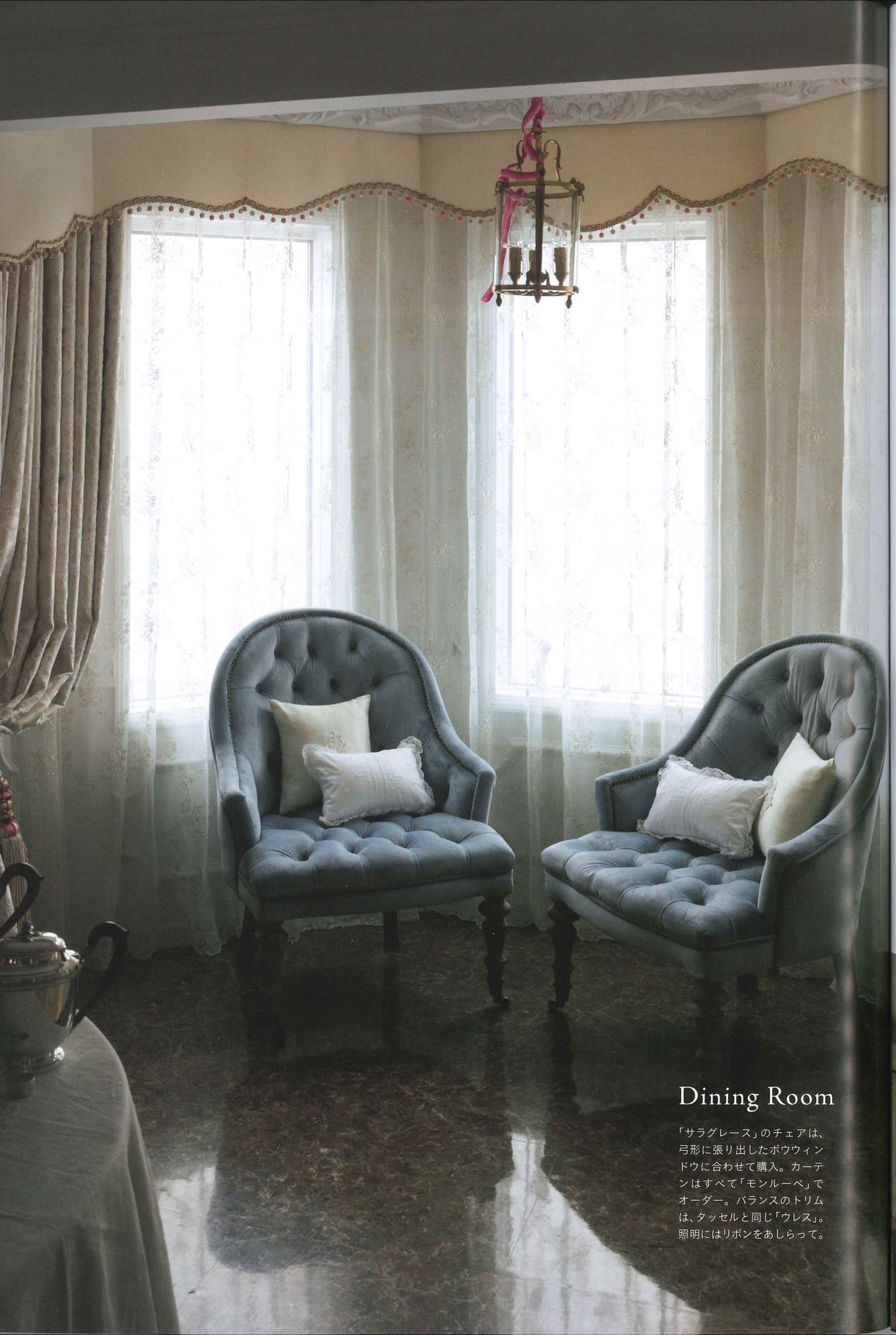
「少女時代からずっと、憧れは白亜の館だったんです。独身時代から何度もフランスに旅しては、ホテルや蚤の市をめぐって、インテリアの理想像をふくらませていました。そして、いつか必ず、外観も内装も白で統一された洋館に暮らすと信じて(笑)、その部屋に合わせる家具を、ロココ調のものを中心に少しずつ買い集めていたんです」

たとえば、イタリアのロココ調家具「マリオ・コルチャゴ」のキャビネットや、それとおそろいのダイニングセット。リビングのルイ16世様式のチェアに、豪華な張り地が目を引く「ドレクセル」のソファ――。

「当時は『コンラン&パートナーズ』デザインのマンションに暮らしていたので、部屋と家具のイメージがちぐはぐでしたが、住まいを新築するにあたって、手持ちの家具が映えるようにと、こだわり抜きました」

床を一段高くしたダイニングは、まるでお気に入りのダイニングセットのためのステージのよう。家具の上品なベージュが、壁や天井の白と微妙なグラデーションを生み出し、よりいっそうエレガントな雰囲気をかもし出します。

リビングは、シンメトリーな小窓の前にソファを配し、ルイ16世様式のチェアは、家具と同様の、白地にゴールドの装飾を施した壁の前にレイアウト。どの家具も最



Dining Room

「サラグレース」のチェアは、弓形に張り出したボウウィンドウに合わせて購入。カーテンはすべて「モンルーベ」でオーダー。バランスのトリムは、タッセルと同じ「ウレス」。照明にはリボンをあしらって。

樽谷さんがヨーロピアンデザインのとりこになったのは、叔母さまの影響が大きいとか。

「パーティが大好きな叔母は、かわいいコースターやナプキンなどで、テーブルを素敵にコーディネートしていました。それは私にとって、輝くような存在だったんです」

そしてもうひとり、奥さまの理想像となっているのはマリー・アントワネット。新居のインテリアも、マリー・アントワネットの別邸の〝プチ・トリアノン〟をイメージしたのだとか。身近な人からも遠い歴史の人物からもインスパイアを受けて、細部にまで美を宿らせたインテリアへと結実させました。窓にはカーテンの専門店「モンルーベ」でオーダーしたロココスタイルのカーテンをあしらい、壁には精緻な意匠のモールディングやブラケットを。そしてテーブルは、樽谷さん独自の感性でエレガントにデコレーション。そのいずれもが、上質な家具を華やかに引き立てます。

とはいえ樽谷さんにとって、これでゴールとはいえないそう。「今はロココ全盛期のものより、プチ・トリアノンに見られるような、少し直線的なデザインのルイ16世様式に魅せられます。その様式に合わない家具もあるので、少しずつ買い替えていくつもりです」

樽谷さんの家具選びのこだわりは、さらに進化をとげ、よりいっそう魅力的な住空間を形づくることでしょう。

Dining Room

1「ロール セリニャック」の〝マリーアントワネット〟の器を主役に。2 キッチンは家づくりを依頼した「天草ハウジング」のオリジナル。3 タッセルはウレス社製。ダイニングテーブルの意匠とそろえたチェアレールは、樽谷さんが一部にゴールドのペイントを。4 蚤の市で購入したシャンデリアとメダリオンでより優美に。

白い内装に映える上質な家具と
エレガントなカーテンで、独自の世界に

リビングのボウウィンドウの前には、「ドレクセル」の1人がけソファを2脚並べて。ボウウインドウには、今後、造り付けのベンチを設けるプランもあたためています。

10年ほど前に購入したチェア。まっすぐな脚に平行に彫られた模様、白塗りに金箔といった、ルイ16世様式のデザイン。購入したショップは残念ながら閉店してしまったそう。

Washroom

壁紙は大胆な色柄に一目惚れした「テシード」のもの。水栓と洗面ボウルは「コーラー」。鏡は蚤の市で購入した40年ほど前のリメイク品。腰壁は愛犬がよごしても掃除しやすいタイルに。

規制の関係で、両開きのフレンチドアにできなかったバルコニー側の窓。縦長の2つの窓に、まるで1枚の大窓のようにカーテンをかけた結果、ロココ調インテリアにふさわしい豪華さに。

Living Room

ソファは「ドレクセル」。15年以上前に購入した猫脚のテーブルは、ルイ16世様式に合わないため買い替えを検討中とのことですが、ランナーやフラワーアレンジで素敵なシーンに。シャンデリアは蚤の市で購入したアンティーク。